

小説

『うるうの朝顔』

水庭 れん 著

謝ることが染みつき、ずっと同じ停滞感を弄んでいる千晶。母の墓参りで訪れた霊園で墓守として働いている青年・凧に出会い、花を咲かせた人の中の矛盾や不調和を正すといわれている「うるうの朝顔」の種をもらい育ててみるが――。過去に取り残した自分を迎えにいく5つのストーリー。

趣味 実用

『家系図で読み解く世界史』

神野 正史 著

いつの時代もどの国も、お家騒動は付き物。「王室の長い歴史の中で最も最悪といわれているわが子を溺愛してきたのに……」「あの大虐殺の黒幕が母上!？」人物のつながりが一目でわかる家系図に焦点を当てヨーロッパの歴史を紐解く、暗記ではない肌で感じる世界史劇場。

小説

『恋する殺人者』

倉知 淳 著

姉として慕っている大好きな従姉が転落死した。警察の事故との見立てに納得いかない大学生の高史^{たかふみ}は、助手を買って出た元同級生の来宮美咲^{くるみや みさき}と調べることに。真相を探る中、協力依頼した人が次々と殺され……。目を曇らせている物の正体は純愛か偏愛か。恋うずまく本格ミステリ。

趣味 実用

『上手にほめる技術』

齋藤 孝 著

人との接し方が更にデリケートになり、不機嫌なコミュニケーションではなく人を傷つけない、さらには「励ます言葉」が求められている現代。人を上手にほめるにはどうすればよいか？ 今すぐ使えるフレーズから四字熟語、やまと言葉、文豪の言葉からタイミングまで豊富に紹介します。

小説

『限界国家』

楡 周平 著

20年、30年先のそう遠くない未来、日本はどうなるのか――。コンサルティング会社の津山が調査依頼を受け、見えてきたのは日本社会を蝕む病巣^{はびこ}が蔓延る姿だった。人口減少、巨額の財政赤字、進む技術革新がもたらす悲劇……。不都合な現実から目を逸らし続けてきたこの国の未来予測小説。

趣味 実用

『四季の雑草図鑑』

稲垣 栄洋 監修

朝の連続ドラマで話題の植物界の父・牧野富太郎。人物とともに雑草にも大きなスポットが当てられています。本書では、名前の由来や、踏みつけられてもけなげに咲く生き抜くための手段、生息地や開花時期など、詳細なデータと共に写真で紹介。読むと散歩がしたくなる1冊です。

小説

『運び屋円十郎』

三本 雅彦 著

「約束の物は何があっても届け切る！」江戸の闇社会の中で知らぬ者はいない主に運び屋として雇われている円十郎は三つの掟を胸に、危険が多くも生業を気に入っていた。ある夜の工作中、荷を奪おうとする手練れに相次いで襲撃を受けるが、それは大きな災厄の序章に過ぎなかった。

趣味 実用

『ご当地食堂、はじめました』

飛田 和緒 著

所変われば品変わる！ ご当地ならではの汁物、おにぎり、ご飯のおともの三品のレシピを47都道府県すべて掲載。土地土地の気候や風習から生まれた料理の背景も楽しめるコラム「しつらいこぼなし」や伝統工芸やその地で活躍する作家ものの器使ったスタイリングと見どころ満載です。

小説

『最後の語り部』

ドナ・バーバ・ヒグエラ 著

崩壊寸前の地球から新惑星へ移り住めることになった少女・ペトラとその家族。目的地までの長い長い眠りの中、乗客の記憶は喪失していた。唯一、記憶を奪われなかったペトラは故郷のおばあちゃんが語り継いでくれた昔話と創造力を武器に、恐ろしい計画を目論む大人たちに立ち向かう。

趣味 実用

『バスドライバーのろのろ日記』

須畑 寅夫 著

高校教師から49歳で憧れ続けてきたバスの運転手に転職した筆者が目の当たりにした現実が甘くはなかった！ 黄色信号で止まればため息・舌打ち、連続勤務当たり前?! 中高年の就業実体験を綴った汗と涙のドキュメント日記シリーズ。バスドライバーも人間です……。